

# 日々の祈り

2021年12月6日(月)～11日(土)

宮崎中部教会



## <はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

## <使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

## <今週の祈りの課題>

- ・この世に来て下さった神の御子イエスさまを覚えて、悔い改めと感謝をもってアドベントの日々を歩むことが出来るように。
- ・一人でも多くの方が救いの恵みに与ることが出来るように。
- ・教会の「アドベントブック」に従って、兄弟姉妹の名前をあげてお祈りしましょう。

## 6日(月)

ルカによる福音書 19章 41～42節

エルサレムに近づき、都が見えたとき、イエスはその都のために泣いて、言われた。「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら……。しかし今は、それがお前には見えない。…」

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。イエスさまは、平和への道をわきまえない者のために涙を流されます。平和への道とは、「神の訪れてくださる時をわきまえる」(44節) ことです。それは、神さまの御心を知ること。そしてそれは、わたしたちに神さまとの和解を与えるために来て下さった、まことの平和の王であるイエスさまを喜んでお迎えする、ということです。アドベントの時、低く降って来られた御子イエスさまを、わたしたちも心からの感謝と喜びと共にお迎えしたいのです。

## 7日(火)

イザヤ書 35章 4節

心おののく人々に言え。「雄々しくあれ、恐れるな。見よ、あなたたちの神を。敵を打ち、悪に報いる神が来られる。神は来て、あなたたちを救われる。」

神は来られます。この方は裁きの神であり、敵を打ち、悪に報いられる神です。本来であれば、わたしたちこそ裁きを受け、神さまに敵対したために打たれる者、自分の悪に対する報いを受けるべき者でした。しかし、神さまはわたしたちをご自分の民として下さったゆえに、わたしたちを救うために来て下さるのです。ですから、わたしたちはおののくことなく、むしろ希望をもって、神さまが来られるのを待ち望むことが出来ます。

8日(水)

詩編 51 編 18~19 節

もしいけにえがあなたに喜ばれ／焼き尽くす献げ物が御旨にかなうのなら／わたしはそれをささげます。  
しかし、神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。打ち砕かれ悔いる心を／神よ、あなたは侮られません。

神さまの御前で、わたしたちが自分のどうしようもない罪を悔い改めるとき。自分ではどうにもならない罪からの救いを、ただひたすら神さまにこそ求めるとき。神さまはそのわたしたちの心をご覧になって下さり、受け入れて下さり、救いを与えて下さいます。神さまが本当に求めておられることは、わたしたちがまことの心で神さまに向かうことなのです。

9日(木)

エレミヤ書 7 章 9~11 節

盗み、殺し、姦淫し、偽って誓い、バアルに香をたき、知ることのなかった異教の神々に従いながら、わたしの名によって呼ばれるこの神殿に来てわたしの前に立ち、『救われた』と言うのか。お前たちはあらゆる忌むべきことをしているではないか。わたしの名によって呼ばれるこの神殿は、お前たちの目に強盗の巣窟と見えるのか。そのとおり。わたしにもそう見える、と主は言われる。

わたしたちは慣れやすく、怠惰で、また自分の快いところに落ち着きがちです。祈りや礼拝が形骸化してしまうこと。これさえしていれば安心であると思うこと。そこでは、本当に心の底から神さまを求める思いが弱まっています。どうか、いつも聖霊によってわたしたちの心が新しくされて、神さまを思うことが出来ますように。

10日(金)

イザヤ書 56 章 7 節

わたしは彼らを聖なるわたしの山に導き／わたしの祈りの家の喜びの祝いに／連なることを許す。彼らが焼き尽くす献げ物といけにえをささげるなら／わたしの祭壇で、わたしはそれを受け入れる。わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。

次の主日礼拝の御言葉です。神さまは、すべての民をご自分の救いに与らせ、祈りの家に招こうとしておられます。どのような者であっても、神さまに心に向けて歩むなら、神さまに立ち帰るなら、神さまは喜んでその者を受け入れて下さるのです。

11日(土)

ルカによる福音書 19 章 45~46 節

それから、イエスは神殿の境内に入り、そこで商売をしていた人々を追い出し始めて、彼らに言われた。「こう書いてある。『わたしの家は、祈りの家でなければならない。』／ところが、あなたたちはそれを強盗の巣にした。」

明日の主日礼拝の御言葉です。どれだけ罪を犯してしまった者であっても、神さまに救いを求め、神さまの御許に立ち帰りたいと願うなら、神さまは喜んでご自分の許へと招き、受け入れて下さいます。一方で、どれだけ熱心に神殿に来ていても、どれだけ整えられた礼拝をささげていても、心が神さまに向けられておらず、神さまの御心を知ろうとせず、神さまの思いを受け入れようとしないなら、神さまはそれを悲しまれ、また怒られるのです。神さまは訪れて下さっています。わたしたちの心が、神さまの御心に沿うことができますように。

聖句:日本聖書協会『聖書 新共同訳』